



ニュースレター あすか



通算202号

2010年1月1日

新年のごあいさつ 「クレド元年」

副院長 高橋 真弓



あけましておめでとございます。
2010年を希望に満ちた明るい年にして
きたいと思っています。どうぞよろしくお願
いいたします。

平成21年は「あすかのクレド作り」に取り組
みました。5月にクレド委員会を立ち上げ毎
月2回、時には夜遅くまで検討を重ねようや
く11月に完成しました。「クレド」とは日本語
で「理念」とか「信条」の意味です。あすか
では平成17年にISO9001の認証を得て、
よりよい事業所作りのための活動を行ってき
ましたが、この仕組みをもっともつと有効に
機能させていくことができないう日々模索を
してまいりました。そんな中、林田正光さんが
書かれた「ホスピタリティが輝く瞬間」とい
う本に出会いました。そこには、いつもこん
な病院、介護施設を作りたいと心に描いてい
た姿がありました。そして、それを作るため
の具体的なステップが書かれていました。
さっそく研修会に参加し、委員会を立ち上げ
「クレド」作りにとりかかりました。

人は、年を重ねると心身にさまざまな障害
が生じてきます。今まで出来ていたことが出
来なくなったり、人の力を借りなくてはなら
ないこともたくさん出てきます。身近な人を
失ったり、環境もさまざまに変化し若いとき
には想像もしなかった大きな喪失感に直面し
ます。そんなとき、何が人を幸せな気持ちに
させ、生きる元気を与えてくれるのだろうか
といつも考えてきました。私たちの仕事は、
人の命、幸せ、人生を預かっているのだとい
つも思います。私たち自身の人生や心のあり
ようから出てくる言葉、表情、動作が他人の
大切な命や人生を大きく左右するのだとい
ことをいつも心に刻みながらクレド作りに携
わってきました。

33項目にわたる「クレド」は患者様、利用
者様へ質のいい医療、看護、介護を提供する
ための私たち職員の心がまえであり、同時に
私たち自身の人生を心豊かに幸せに生きてい
くための指針でもあります。新しい年は、ク
レドを職場に根付かせ、私たちの行動をより
よく変革していくために力を尽くしていきた
いと思っています。どうぞよろしく願
いいたします。



【ページ】

- 1. あすか事業所だより……………2
- 2. あすか交流会開催のお知らせ
- 3. ～難聴と補聴器 No.3～
- 4. あすか事業所だより……………3
- 5. 事業所モットー……………4
- 6. 作品展示会……………5
- 7. おもしろきかな我が人生
～米田 正子さん～……………6
- 8. 若竹句会 11月作品抄……………7
- 9. あすかスタッフに迫る！……………8

【目次】

“ニュースレターあすか”は当法人のホームページ上でも
見ることができます

<http://www.asuka-net.or.jp>

発行元：医療法人あすか

(編集：浜本 正美)

住所：〒731-0103

広島市安佐南区緑井2丁目12-25

TEL:082-879-3143

FAX:082-879-3190

三滝寺 もみじ狩り

ここ最近の小春日和は、行楽シーズンに絶好の陽気とばかり、ご利用者様お三方と、三滝寺へもみじ狩りドライブに出かけました。

道中も、遠くの山々や道路の街路樹の色づく様が、深秋を飾るにふさわしい充分過ぎる色彩を織り成していました。

現地に着くとこれまた驚嘆の極み、紅く色づいた色鮮やかなもみじ、「きれえい」、「キレイじゃねえ」、「ほんとに綺麗じゃねえ」他に口をついて出る言葉はなく、只々眼に入ってくる紅葉の美しさに唖然とし、時間の流れが止まる感覚に迫られて、「ご利用者様と感動を共有した有意義なひとときでした。」



紅葉に駆けこむ、お三方!

あすか交流会開催のお知らせ

今回のテーマは「一緒に作ろう!みんなハッピー、ポジティブケアプラン!」です。ご本人の「~したい」「~になりたい」という希望をかなえ、ご自身の意欲を引き出していくケアプランを作りましょう。同じ障害の程度でも、意欲や希望の持ち方、サポートのありかたで生活の質(QOL)は大きく異なります。また、ケアプランはご本人だけでなくご家族のQOLも考慮したケアプランでなくてはなりません。あすか介護事業所において、限られたマンパワーではありますが、最大限のサポートが出来るよう、ご本人、ご家族と一緒にケアプランを作りたいと思ひ下記の日程で交流会を開催いたします。ぜひご参加ください。

記

日時:平成22年1月23日(土)午後1:00~3:00

場所:あすかホール

テーマ:「一緒に作ろう!みんなハッピー、ポジティブケアプラン!」

~難聴と補聴器~ No.3

孫の手紙

中田 千鶴代

子供の頃、病気が原因で聴覚障害者になり、苦しい思いを数多くしました。三年前のこと、同居していた孫が、落ち込んだ私を見て、手紙を渡してくれました。うれしくて、何度も読み返し涙しました。「よし、頑張ろう!」仲間がいるのだ!今ではこの手紙が元気の元です。

おばあちゃんへ

今日は体調が悪いかと心配しました。耳の聞こえが悪いんじゃない。聞こえない時は聞こえないで、いいじゃない。でも、綺麗な景色も見る事が出来るし運動もできるよ。美味しい物も食べられるよ。人の声が聞こえなくても誰にも迷惑はかからないよ。大丈夫だからね。心が苦しくなったら、苦しい事はかり考えないでどっやっで楽しく生活して人と関わるか明るい気持ちで生活しよう。耳にかわる手段は沢山あるからね。

健司

心温まるお手紙が掲載されましたので中田様のご了解を得て、ご紹介させて頂きました。

広島市中途失聴・難聴者協会 『難聴通信』 358号より

《中途失聴者難聴者相談のお知らせ》

毎月第2日曜日 13時~15時

広島市東区光町二丁目1・5 心身障害者福祉センター4階

電話(082)263・4698(FAX共用)



しゅりあちよーく
野ばら
しゅりあちよーく
野ばら祭

11/11

ホールや壁面に飾られた、ご利用者様の心のこもった温かい作品に囲まれてイベントは開催されました。皆様、この日の為に準備や練習に熱心に取り組まれました。
絵画の皆様による、心温まる紙芝居。サラリーマン姿に扮しての「ちゃんちきおけさ」で会場を盛り上げて下さったよるず屋の皆様。勇ましい「武田節」で素晴らしい声を披露してくださった民謡の皆様。

スタッフによるハンドベルの演奏では、利用者の方々の歌声でその拙い演奏をカバーしていただきました。プログラム最後は「しゅりあちよーくの歌」を合唱し皆様の歌声が会場を包みました。
皆様と和やかな時を過ごせた事に、深い喜びを感じた一日でした。

シヨートみどりい
デコレーションを楽しむ

11/17

料理の好きなスタッフでシフォンケーキ、リンゴ・洋なしのコンポートを作りました。
ホイップ・みかん缶・色とりどりのチョコ・ミントの葉を用意して、ご利用者様にデコレーションを楽しんでいただきました。絞り袋を上手に使って縁取りをされたり、色どりやバランスをみながら盛り付けされる方などオリジナリティあふれるパフェ風のデザートが完成しました。
おやつ時間に緑茶と一緒にいただきました。



きれいにデコレーション
出来ました



シヨートいわや
4階 誕生会

11/26



11月28日で88歳になられる佐々木岸子様のお誕生日をお祝いさせていただきました。

皆様も笑顔でお祝いして下さい、佐々木様も「この歳まで生きられて良かった」と大変喜ばれていらっしゃいました。

皆様に楽しんでいただくごと、職員と二人羽織をしました。大きな声で職員の顔へクリームを付けようとされ賑やかで笑いでいっぱいになりました。

「私の時にも頼むね」や「今日はありがとう。楽しかった」という声が多く、職員も嬉しい気持ちになりました。温かい誕生会となりました。



ありがとうねえ

2010年 ★事業所モットー

～職員が一丸となり 皆様に愛される医療法人あすかを目指しています。～

ご利用者様の力作の似顔絵、とても雰囲気が出ていますよね



あすか療養センター センター長

大北 和彦

当センター開設以来、1年5カ月になります。いま改めて、感じることは言うまでもなく、利用者の方々の安心、安全が保障された生活の場であり続ける事です。職員の力を結集して、皆様のやりたいことを一つずつ実現します。医療面でのサポートも全力で行います



支援事業所

三原 千春

お一人おひとりに向き合って、専門性をもって温かい心で支援します。



事務

中井 祐子

常に先を考えた行動をとり、チームワークで業務を進めていきます。



まやるちょーく

高島 瑠美

利用者さんと以心伝心できる事業所を目指します。



かるやんちょーく

丸澤 立子

沢山の笑顔と笑い声に包まれた温かいかるやんちょーくでありたいです。



しゅりあちょーく

幾田千代

笑顔の花咲く、明るく楽しいしゅりあを目指していきます。



ショートみどりい

森元智代

絶えない笑顔とゆとりのある対応ができるショートを目指していきます。



野ばら

宗金珠美

外出の機会をもっともっと増やし、楽しみを持って活動していきます。



ショートいわや

河野 修

全職員、一丸となって患者様、ご利用者様の『笑顔』を増やすことに全力で取り組み、「いわや」を盛り上げていきます。



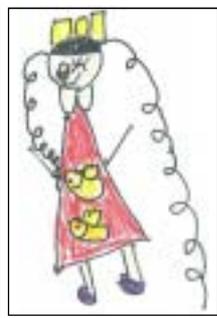
すてっぷ

小西 正文
 ご利用者様のやりたい事を全て実現するためにADL向上を目指してリハビリを提供します。



つどいの家

藤田 和弘
 「和を以って、尊しと成す」
 明るく、元気に、楽しく集うつどいの家を目指します。



病児保育室

新谷 祐子
 『安心・安全・安静』に過ごすことができるオアシスのような病児保育室を目指しています。



野の花

宮崎 馨
 「笑顔とやすらぎ」
 ご利用者様が明るく楽しい場所と、言って頂ける事業所をめざします。



作品展示会

書道・絵画・パッチワーク・タイルモザイク・園芸の各プログラムで、ご利用者様が作成された作品を展示しました。力強く、優しい、そして繊細な作品ばかりです。

まやるちよーく
 かるやんちよーく

11/14



▲園芸作品：押し花



私は誰でしょう？

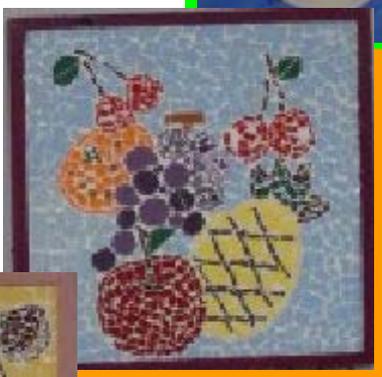


▲書道

寄せ植え



▲さしこの手提げ



▲タイルモザイク



つどいの家

よねだ
米田

まさこ
正子さん



おもしろきかな我が人生

昭和3年1月15日(81歳)



「元気が一番
それが何より！」

お住まい...安佐南区毘沙門台

好きな食べ物...魚類
(特に握り寿司)

特技...そろばん

子どもの頃の思い出

私は満州(現在の中国)の大連で、昭和3年に6人兄妹の4番目(長女)として、産声をあげました。(実際は、私がこの世に生を受けた時、すでに兄3人が病で他界していたらしく、本当は9人兄妹の7番目の長女だったらしい。一人の妹以外は、みな男の兄弟。)

両親は満州鉄道に従事していましたので、私も女学校卒業後19歳で日本に引き揚げるまでの3年近く、得意のそろばんを活かし満州鉄道で事務を執っていました。

その間、遊びらしいあそびも無かった状況のなかで、唯一楽しかった想いでは大自然の中での池で滑るスケートでした。「いやあ今思えば、大陸ならではのスケールだったね。」

日本の地に引き揚げて

19歳の年に、生まれて初めて日本の地を踏んだのですが、引揚げ船にて長崎県の佐世保というところに着き、見慣れぬ風景の地を鈍行列車に揺られ、半日かけて高田郡志路の内山(現在の白木町)に落ち着きました。

何もかもが初めてだったし、多感な時期でもあったので、とにかく「環境に馴染むことに、必死でしたね。」

そのうち親類の援助もあって、先頃(今年の7月)他界した主人と、互いの叔父さんの紹介で、昭和24年5月に21歳で見合い結婚するまで、植物の皮を天日干し、包み紙を作る仕事をして、生計を助けていました。

日本に引き揚げる時には、既に母が他界していましたが、弟妹の母親代わりも努めなければならず、とにかく、一生懸

命だったことしか記憶にないですねえ。」

その後は、幸か不幸か誠実でまじめ一筋の主人と結婚し、一日でも早く自分の家を手に入れるべく質素儉約に努め、お蔭様で30歳ごろには白島に、小さいながらも夢のマイホームを持つことが出来ました。

そこではしばらくは、順風満帆とはいかないまでも、平穏無事な日々を過ごしていました。が、広島モアシア大会の開催を期に一気に近代化が進み、アストラムラインの開通で予定地に入っていた我が家も立ち退きになり、現在の毘沙門の家に移って来ました。そして、平成19年より夫婦一緒に「つどいの家」に来るようになり、現在に至っています。

つらかったこと/悲しかったこと

つらかった事といえば、満州時代の少女盛りに「青春」という青春らしきもの、想い出がなかったこと。

戦時下であり治安が悪く、何をしても咎められることしかなく、アツという間に過ぎ去ってしまった。現代の若い人が羨ましい限り、「一度きりの人生、二度と無い青春時代を、大切に真剣に生きて欲しい!」

悲しかった事は、長男が生まれて間もなく股関節脱臼を患っていたことに気づかず、立ち上がるようになって異変に気づいたこと。ほぼ完治はしたものの若干の癖が残り、親としての責任に苛まれた。

楽しかった思い出

晩年までタクシーの運転手をしていた主人と、毎年何処かしら温泉に出

かけたこと。鳥根や信州、鹿児島の方にも行きました。特に鳥根は近場というところもあり、良く出かけましたね。なかでも、美又温泉(美人の湯)で知られている。(には良く行ったし、今でも行きたいね。また、結婚して子どもがまだ小さかったころ、子どもたちが寝静まったところを見計らっては夫婦でそつと家を抜け出し、自転車で映画を観にいったこともありましたね。

現在に至って

今はとにかく元気であること、元気であれば、それが一番。主人を亡くして半年も経たないので、まだまだ心の悲しみは癒えていないけれど、くよくよしなくても過ていく時間は一瞬、ならば、毎日を明るく楽しく、「つどいの家」のみんなと元気に過ごしたい、それが今の私です。

在りし日のご主人に、優るとも劣らない誠実でまじめな米田さん。

社交性があり世話好きで、他人のことを放つとけない、時折り厳しい「つどいの家」のお母さん。

時にスタッフ以上の働きをし、日々のお手伝いをして頂いています。

スタッフ一同感謝々々で、お礼のことばの言い表し方もありませんが、これからもまだまだ多くの事を教えて頂くよう、よろしくお願致します。

困難な時代に、青春時代を過ごした米田さんには、これからの人生を謳歌して頂き、一日でも長くいつまでもいつまでもお身体大切に、只々元気であることを願うのみです。

つどいの家

藤田 和弘



若竹句会十一月作品抄

雲海の 見える日のある 広島市

西 富枝

〔寸評〕夏、高山に上って却下を見下ろすと、一面の白雲の連なりが下界をさえぎり、その中から島のように高山が頂上を現して、荘厳な景色を呈します。作者は三次の高谷山まで行かなくても、しゅりあちよーくからでも見えるときがあるよと言いたかったのでしよう。俳句では雲海は夏の季語とされています。

秋野菜 われもわれもと 庭いっぱい

西 富枝

〔寸評〕家庭で食べる野菜を作る小規模な家庭菜園が大流行。抽選で借主を決めるところもあるとか。この句、平易な言葉でこの賑わいを良く表しています。「われもわれも」がよく効いています。

晩秋を こよなく愛す 実り多きを

中谷 明子

〔寸評〕「こよなく」は、この上なく、非常に、極めて。四季それぞれに特徴があり、どの季を愛すか、意見の分かれるところであろう。作者は実り多き秋、わけでも晩秋をこの上なく愛すると宣言した一句である。

寒風が 色を吹き付け 山粧よそう

中谷 明子

〔寸評〕「山粧う」は、春の山を形容して「山笑う」といった漢詩の対比句。「秋山明浄にして粧うが如し」からとったものです。「粧う」は身なりなどをつくること、飾る。すると寒い風が色を吹き付けて、山の身なりを飾ったという。「色を吹き付け」の発想が独創的です。ばらしい一句です。

松茸や 香り求めて 足の下

河野 一枝

〔寸評〕言つまでもなく茸類の王者です。赤松の林、ことに落葉におおわれた湿地に多く自生し、芳香を放ちながら傘のように扁平に開きます。下から上を眺めて探るのが常識とされています。

(例句) 松茸や人にとらるる鼻の先 去来

柿の木や 折れやすいとは 知りながら

河野 一枝

〔寸評〕「折れやすいとは知りながら」上つたら落ちてケガをしたかどうかなど結末についてはいつさい省略されている。それでいて柿の木の折れやすいことは肝に銘ずる一句です。

無花果いちじくの 口を開きて 虫を呼ぶ

鍛冶 久子

〔寸評〕晩秋、花囊が成熟すると、そのまま実となり、外皮が暗紫色になり、六セシ子ほどのその卵形が裂けて薄桃色の果肉を見せるようになります。これを「口を開きて虫を呼ぶ」と詠んだ写生句。

(例句) 蜂どもと露のいちじく奪ひあつ 悌二郎

肌寒し 下着一枚 ふやしみる

鍛冶 久子

〔寸評〕秋も深くなると、大気が肌に寒々と感じるようになる。夜の寒さは毛とより、昼間の寒さを身に感じるようになるのが肌寒の状態です。「下着一枚」には実感がこもっています。

信廣高陽 選 (平成二十一年)

青空や 柿一枝に 竿の先

熊本 ハツエ

〔寸評〕柿が実った一枝に竿の先がよろよろとのぼってくるのが見えたという一句。(例句) よろよると棹がのぼりて柿挟む 高浜虚子

稲刈りや 孫も手伝い はなやげり

熊本 ハツエ

〔寸評〕農業の担い手が社会問題になっている時に、孫も手伝いとは心強い。休息タイムともなると一家総出の賑やかな風景が繰り広げられることでしょう。(注) 原句、上五「稲刈り」下五「空高し」は、いずれも秋の季語です。

ほほ笑みの 曾孫 団栗独楽どんぐりこままわす

粟根 年雄

〔寸評〕団栗はぶな科植物のうち、櫟・榎・水榎・あべまき・かしわなど、比較的太形な堅果の総称です。とくに櫟の木を団栗の木とも言います。実を竹や木で貫いて、子供が団栗独楽を作って遊びます。廻す方も、見る方もほほ笑みがこぼれています。

ふるさとの 名のいちじくを 買いにけり

粟根 年雄

〔寸評〕いちじくは珍しくないが、ふるさと産なら買ってみたいという、ふるさと志向の一句。

台風のと きめき国体 銀メダル

小西 春良

〔寸評〕(原句)「トキの国台風と共にメダル獲り」を表記のとおり、省略してみました。俳句は省略の文学であるといわれています。ときめき国体といえは新潟県、即トキの国として有名ですから、これを省略できる。「と共に」獲りも省略しました。ともあれ銀メダル2個受賞、おめでとつこいいます。

花の丘に 菊も加わり にぎやかに

小西 春良

〔寸評〕花の丘には、四月号で木瓜の花に変身し、今月号で「菊」も加わったとあり、どんどん賑やかになってくるようです。今後がたのしみですね。

横這いに 松茸狩の びく重し

常広 信枝

〔寸評〕広辞苑では「びく」は竹・わらで編み、物を盛って運搬する具とあります。この句「横這い」は松茸狩りの秘伝かもしれない。

柿の木たわの 枝電たわ撻たわませて 色がよい

常広 信枝

〔寸評〕原句「大きな木枝たわむれて色がよい」は季語が見当たらないこと。「枝たわむれて」は「戯れて」と間違われそうです。

選者 吟

百歳の 姉さんあね被り 赤まんま

信廣 高陽

あすかスタッフに迫る!

しゅりあちょーく

介護職

中谷百合子さん



Q、あすかに入社して何年ですか?今の主な仕事を教えてください。

A、7年になります。現在は、介護と回想法・民謡・俳句・くもん学習療法の担当をしています。回想法は、前任者に教えてもらい、本を読み勉強しました。回想法ではその方の歩んできた人生を教えていただき、とても勉強になります。そして子供のときのことを楽しそうに話される、その笑顔がいつも楽しみです。

Q、仕事をする上で心がけていることは?

A、人生のうちでも、一番大切な時間を過ごしていただいているので、しゅりあに来て良かったと思っていただきたいと思います。一日に一回は笑っていただきたいと思います。

Q、お休みの日は何をしていますか?

A、庭いじりをしています。お花を植えたり、色々なアンティークレンガを並べて庭づくりをしています。娘とショッピングやランチの食べ歩きに行くのも楽しみです。

Q、最近ハマっていることや好きな時間はなんですか?

A、本を読むことが好きで、「夢をかなえるゾウ」は面白くて泣けました。こまごまとした小物を作ったり、イラストなどの絵を描くことも好きですね。骨とうも好きで、この前は旅行先で昔の秤を買いました。



似顔絵を描かれた佐々木様と一緒に



スタッフの声

とても明るく、歌って踊れるスタッフです。そして南京玉すだれなどができ芸達者で、いつも中谷さんの周りは笑い声に包まれています。又、中谷さんの似顔絵を描かれたご利用者様の佐々木様からは、「やさしく気が利いて、いつも相談ののってくれます」というお言葉を頂きました。

インタビューー 幾田千代

3S

Specialist (専門家)

~医療法人あすかの理念~

職員は、医療、看護、介護の専門家(Specialist)としての誇りを持ち、実力を高めていくよう努力を続けます。

当法人は ISO9001 の認証施設です



Sympathy (共感)

職員は、患者様と利用者様の人生全体を支えるためにその思いを共感し(Sympathy)必要サービスを継続的に提供します。

Safety (安全)

職員は、患者様と利用者様の健康と安全(Safety)に対して細心の注意を払います。

【編集後記】

平成二十二年、新しい年を迎えるにあたり「ニューズレターあすか」では、今まで以上にご利用者様の生き生きされた表情とともに、医療法人あすかの活動を皆様にお伝え出来ればと思っております。これからも、皆様のご意見をお聞かせ頂ければ有り難く思います。平成二十二年も、皆様にとって良いお年でありますように心からお祈りいたします。

毘沙門クリニック
ショートステイ いわや
デイサービスセンター 野の花

あすか療養センター 緑井3丁目40・30

毘沙門台東1丁目24・16
デイサービスセンター しゅりあちょーく
デイサービスセンター 野ばら

高橋内科小児科医院
デイサービスセンター まやるちょーく
デイサービスセンター かるやんちょーく
通所リハビリテーション すてつぷ
ショートステイ みどりい
小規模多機能型居宅介護事業所 つどいの家

緑井2丁目12・25

あすか福祉用具貸与事業所
あすか病児保育室

あすか居宅介護支援事業所
082・830・5177

緑井3丁目20・1・103

高齢者の在宅療養を支援します